

天空の郷地域福祉フェスティバル in 久万高原

分科会報告まとめ

日時：平成25年7月21日（日）

15：25～15：45

場所：久万高原町産業文化会館「ホール」

【出演者】

コーディネーター：いよココロザシ大学 理事長 泉谷 昇 氏
分科会報告：①縁側発見プロジェクト Group 縁側 部会長 二宮 悟郎 氏
②集落の未来を考える！ お宝探し隊 部会長 坂口 大作 氏
実行委員会役員：天空の郷 地域福祉フェスティバル in 久万高原 実行委員長 竹森 洋輔 氏
天空の郷 地域福祉フェスティバル in 久万高原 副実行委員長 高山 泰子 氏
天空の郷 地域福祉フェスティバル in 久万高原 副実行委員長 大原 貴明 氏

1 分科会報告

①第1分科会報告

第1分科会部会長 二宮 悟郎 氏

- ・パネラー全員に共通していたことは、パッションだと思う。情熱をもって活動していれば、人が集まってくる。
- ・会場から意見が出たが、横の繋がりも大切にしないといけない。今回、この実行委員会で、お互いのことを知らない異業種のメンバーが集まったことが、横の繋がりをつくるきっかけになったと思う。

②第2分科会報告

第2分科会部会長 坂口 大作 氏

- ・パネラー全員に共通していたことは、地元をなんとかしないといけない、このままでは駄目だという思いが、アクションに繋がっていたことだった。
- ・まちづくりのための活動は行政主導でも、資金が全くなくても、継続するのが難しい。
- ・一村一品運動があったころ、成功は1000分の1程度の確率だった。これから実行委員で行っていく活動には失敗と挫折がたくさんあると思う。
- ・お宝はアイデア次第で発見できるもの。人材を増やしていくことが成功への第一歩であるように感じた。
- ・フェスティバルはやって終わりではない。このフェスティバルがスタートである。

2 実行委員会 副委員長からの報告

①副委員長 高山泰子 氏

- ・久万高原町で異業種の方が集まるこのような取り組みは初めてだったため、スムーズにいくのか心配でもあり、方向性を見つけるまで不安だった。
- ・異業種が集まったことで、個々に地域資源を持っていることがわかった。
- ・これからの企画はここからスタートすると思う。

②副委員長 大原 貴明 氏

- ・福祉が何か分からないまま参加したが、実行委員会を重ねていく毎に、社会を良くしていく、地域を盛り上げていくことだと考えるようになった。
- ・社協から協働というテーマが出され、実行委員会がはじまった。今まで色々な活動を行なってきたが、初めて知り合う方もいた。そのなかで徐々にゆるやかなネットワークが生まれてきたと思う。今後、一步を踏み出していけたらと思っている。今日、参加された方もゆるいネットワークに参加してもらいたい。

3 決意表明

委員長 竹森 洋輔 氏

- ・今回のフェスティバルで一人ひとりのハッピースポットが見つかったのではないかな。
- ・テーマは「気づきと活動のひろがり」だった。「気づき」はこのフェスティバルを通して見つかったのではないかな。「活動のひろがり」は、これから横の広がりを繋いでいくことが大切になってくる。
- ・参加された皆さんの声の実行委員を後押ししてくれる。どんどん思いを実行委員、社協職員に伝えてほしい。一緒に素晴らしい久万高原町をつくっていきましょう。

4 まとめ

コーディネーター 泉谷 昇 氏

- ・気づきを得られたフェスティバルになったのではないかな。
- ・フェスティバルをすることが目的ではなく、それぞれ活動していくことで、横の繋がりがや輝きが生まれてくると思う。